

『一心千里』

永田 隆一

走って行けば、
見えてくる

見えてくる



第84回

「仕事とは、仕える事と書くんですわ」。薬師寺の宮大工、西岡常一棟梁が1980年代に残した言葉です。

ヒノキで建てられた法隆寺や薬師寺は、1000年経ってもびくともしません。

て、余分なものがないのは美しいものです。

て同じような成長の過程があります。誠に興味深いことあります。

「守破離」という王道は、長い目で社会が見守ることが前提であります。筆者は、社会の仕組みが変化したのに、国の制度・政策が追いついていないことも大きな課題と考えますが、同じように大きな課題として、国民の価値観・志向性でもあるように感じます。グローバル経済、インターネットの世界、価値観の多様化のなかであって、国民が多様な価値観・志向性にチャレンジする（とも重要と考えておりま

す。チャレンジは、現実問題として、とても厳しいものであります。例えば、企業による買収(M&A)は、ある統計によりますと、20%が成功、20%が毎年の減損処理が発生するような失敗、60%は成功と失敗の間で継続努力を強いられ

断された方が正解と判断される案件だそうです。過去20年、日本は起業率を廃業率が上回っております。およそ1%です。また、起業して継続している企業の統計です。5年継続15%、10年継続6%、20年継続は0.4%です。

「人の人生は統計に支配されるものではない」。サン・テグジュペリが星の王子様で書いておりま

守り尽くして 破るとも 離るとも 本を忘るな

離るとも 本を忘るな

せん。棟梁の仕事は、木と会話して、木に学んで、木の癖を見抜いて、適材適所に使うことです。木を買う時は、その土を観察します、そして山ごと買い求めます。北側の木を北側の柱に使います。南側で育った木で南側の柱を作るのです。各々の木材が十分役目を果たし

《守破離》

千利休が450年前に残した言葉です。「守り

《ビジネス界の守破離》

結果として残されたの

す。あまりにも厳しい数字であります。

《処方箋》

筆者が考える処方箋が2つあります。

（毎月連載）

「この忌々しい大きな石を削っているのです」と答えました。別の石工に同じ質問をしたところ「世界で一番神聖で美しいカセドラル神殿に使われる石を削っています」と答えたのです。

西岡棟梁は語ります。樹齢1000年を超えた

なることも大きな課題と考えますが、同じように大きな課題として、国民の価値観・志向性でもあるように感じます。グローバル経済、インターネットの世界、価値観の多様化のなかであって、国民が多様な価値観・志向性にチャレンジする（とも重要と考えておりま

す。あまりにも厳しい数字であります。

《処方箋》

筆者が考える処方箋が2つあります。

（毎月連載）